

## 中国語方言を利用した日本漢字音の指導

文藻外語學院  
助理教授 小高裕次

### 0. 目的

本稿の目的は、中国語を母語とする日本語学習者(以下、単に「学習者」と呼ぶ)が、自らの中国語方言(以下、単に「方言」と呼ぶ)を手がかりに、日本語における「漢語」を効率よく学習するための指導方法の一例を示すことである。

本稿で言う「漢語」とは、「大和言葉」「和語」と対を為す概念である。乱暴に定義すれば、「漢字で表記する際に音読みする語彙」のことである。

### 1. 中国語と日本漢字音の音韻対応

日本語学習者にとって、漢字は難しい。中国語を母語とする学習者にとっても、漢字の学習には一定の困難を伴う。彼らにとって、大部分の漢語の意味を推測することは容易である。問題は漢語の発音である。

例えば、「東部(とうぶ)」を「とんぶ」と読んだり、「勝利(しょうり)」を「しょんり」と発音したりする学習者は多い。これは、学習者の母語である中国語からの類推による間違いである。「南部(なんぶ)」の「南 nan」、「心理(しんり)」の「心 xin」のように中国語で n 音で終わる漢字が日本語でも同様に n 音で終わるため、「東 dong」「勝 sheng」などの ng 音で終わる漢字も同様であろうと考えるために、上記のような間違いを犯すのである。

中国語の発音から日本漢字音を推測自体は悪いことではない。教師が適切な指導を行い、正しい推測ができるようになればよいのである。上記の例では、中国語で n 音で終わる文字は日本語でも n 音で終わるが、中国語で ng 音で終わる文字はそうではない、と指導すれば、学習者が両者を混同することはなくなる。

### 2. 日本漢字音の指導における方言の利用

上記のように、北京官話との音韻対応を習得させることだけでも、日本漢字音の推測を選び容易にすることができる。しかし、中国語の方言音を利用すれば、日本漢字音の

推測は更に容易になる。

筆者の経験によると、中国語話者が日本漢字音を発音する際に、末尾子音の n/-ng の混同と並んで間違いやすい点は、入声音における韻尾の脱落である。

例えば、「観察(かんさつ)」を「カンサ」と読んだり、「学生(がくせい)」を「がせい」「がっせい」と発音したりするのがこれである。

日本漢字音では、いわゆる中古漢字音の -t, -k 音は /ti, tu/・/ki, ku/ の形で保持されているが、中国語北方方言では消失してしまっている。そのため、学習者は母語の干渉を受け、入声韻の韻尾を脱落させてしまうのである。このような場合、学習者は正しい日本漢字音を推測することはできない。

一方、台湾語や客家語は入声韻の語末子音を保持している。台湾—特に南部地区では若年層でも閩南語や客家語を使用できる学習者が多い。そこで、中国語方言と日本漢字音との対応関係を説明すれば、前述のような発音の間違いは格段に減少する。

### 3. 指導例

#### 3. 1. 学年の設定

方言音を利用した日本漢字音の指導は、中級以降の学習者に行うことが望ましいと思われる。学習者は、初級から中級段階に進む頃から漠然と中国語と日本漢字音の対応関係に気がつき始めるからである。また、中国語の音韻論を学習した後であれば、指導の効果は更に高まる。

#### 3. 2. 教授方法

最初に、北京音では同じ発音になっているが、方言音では別の発音となる文字の組を示す。北京音と方言音を比較させることにより、学習者に入声の存在を意識させることが目的である。

例：

初 cú	—	出 cüt	查 cǎ	—	察 cǎt
事 sii	—	式 sīt	符 fū	—	服 fuk
預 yi	—	玉 ngiuk	課 ko	—	客 hǎk

(発音は客家語桃園方言)

次に、方言音と日本漢字音とを対比させ、対応関係を悟らせる。

例：

初 cú	しょ	—	出 cüt	しゅつ	查 cǎ	さ	—	察 cǎt	さつ
事 sii	じ	—	式 sīt	しき	符 fū	ふ	—	服 fuk	ふく
預 yi	よ	—	玉 ngiuk	ぎよく	課 ko	か	—	客 hǎk	きゃく

さらに、日本漢字音では、無声子音を先頭に持つ漢字が後続する場合、入声音の漢字が促音化することがあるという規則を教えれば、熟語も正確に読みこなせるようになる。

例：

結けつ+婚こん 結婚けっこん 実じつ+際さい 実際じっさい  
六ろく+回かい 六回ろっかい 学がく+校こう 学校がっこう

#### 4. 方言からの日本漢字音推測の利点

この方法で、学生が中国語漢字音と日本漢字音の対応をマスターすれば、語彙の劇的な増加がというメリットが期待できる。日本語と中国語では共通する語彙がたくさんあるため、中国語で慣れ親しんだ語彙を日本語読みで正確に発音するだけで、使用できる語彙の数が増加するからである。

その理由の一つは、言うまでもなく、日本語が中国語の語彙を借用しているからである。

日本と中国との長い交流の歴史の中で、日本語は多くの中国語語彙を取り入れてきた。これらの語彙が現代日本語でも使用されているのである。

また、もう一つの理由は、中国語が日本語の語彙を借用したからである。明治以降日本が西洋文明を取り入れる際に、英語やドイツ語などの多くの語彙を「和製漢語」という形で翻訳した。それを二十世紀初頭の中国人留学生が学び、中国語の語彙に取り入れたのである。以下に、南京ドンブリ(2002)が『漢字外来語詞典』から抜粋した、中国で使用されている「和製漢語」の一部を挙げる。

亜鉛、暗示、意識、演出、大熊座、温度、概算、概念、概略、会談、会話、回収、改訂、解放、科学、化学、化膿、拡散、歌劇、仮定、活躍、関係、幹線、幹部、観点、間接、寒帯、議員、議院、議会、企業、喜劇、基準、基地、擬人法、帰納、義務、客観、教育学、教科書、教養、協会、協定、共産主義、共鳴、強制、業務、金婚式、金牌、金融、銀行、銀婚式、銀幕、緊張、空間、組合、軍国主義、警察、景気、契機、経験、経済学、経済恐慌、軽工業、形而上学、芸術、系統、劇場、化粧品、下水道、決算、権威、原子、原則、原理、現役、現金、現実、元素、建築、公民、講演、講座、講師、効果、広告、工業、高潮、高利貸、光線、光年、酵素、肯定、小熊座、国際、国税、国教、固体、固定、最恵国、債権、債務、採光、雑誌、紫外線、時間、時候、刺激、施工、施行、市場、市長、自治領、指数、指導、事務員、実感、実業、失恋、質量、資本家、資料、社会学、社会主義、宗教、集団、重工業、終点、主観、手工業、出発点、出版、出版物、将軍、消費、乗客、商業、証券、情報、常識、上水道、承認、所得税、所有権、進化、進化論、進度、人権、神経衰弱、信号、信託、新聞記者、心理学、凶案、水素、成分、制限、清

算、政策、政党、性能、積極、絶対、接吻、繊維、選挙、宣伝、総合、総理、総領事、速度、体育、体操、退役、退化、大気、代議士、代表、対象、単位、単元、探検、蛋白質、窒素、抽象、直径、直接、通貨収縮、通貨膨張、定義、哲学、電子、電車、電池、電波、電報、電流、電話、伝染病、展覧会、動員、動産、投資、独裁、図書館、特権、内閣、内容、任命、熱帯、年度、能率、背景、覇権、派遣、反響、反射、反応、悲劇、美術、否定、否認、必要、批評、評価、標語、不動産、舞台、物質、物理学、平面、方案、方式、方程式、放射、法人、母校、本質、漫画、蜜月、密度、無産階級、目的、目標、唯心論、唯物論、輸出、要素、理想、理念、立憲、流行病、了解、領海、領空、領土、倫理学、類型、冷戦、労働組合、労働者、論壇、論理学

このように、「和製漢語」は日本語においても中国語においても使用頻度の高い語彙である。方言からの推測によって、こうした語彙の読みを一つ一つ個別に覚える必要がなくなれば、学習者の負担を大きく減少させることができる。

この方法は、客家語・閩南語話者だけでなく、粵語や贛語・呉語の話者にとっても有効である。また、朝鮮語やベトナム語話者にとっても、同様の効果が期待できる。

#### 参考文献・website

劉正炎 高名凱 麦永乾(1984)『漢字外来語詞典』上海辞書出版社  
南京ドンブリ(2002)『日本から中国へ伝来した和製漢語』

<http://frett.com/nandon/lunwen1.htm>